

▶ケータイ

「モバチュウ」が伝えた 電動車椅子サッカーの世界カップ

文：NPO法人 STAND

全試合をインターネット中継

10月、電動車椅子サッカーの初の国際大会「第1回FIPFAワールドカップ2007」が日本で開催された。我々STANDは主催者連携事業として全試合のインターネット中継を実施した。試合生中継のほかに、選手・監督のインタビューや、会場に来られない各国の代表チームの縁(ゆかり)の人たちからの動画でのメッセージなどを配信した(右図)。

<http://www.i-project.jp/stand/mobachoo/w-cup/>

「モバチュウ」とは

この中継は2003年から電動車椅子サッカーをはじめ、さまざまな障害者スポーツを中心に行っているものである。大会会場では、試合の生中継についてはWebカメラを設置し撮影、インタビューはテレビ電話機能のあるケータイを使用して撮影する。

各国からの応援メッセージは、ケータイで撮影した動画をメールで送っていただく。これらをあわせて専用のホームページで配信するというものである。また生中継終了後、全試合がVODで閲覧できる。ケータイテレビ電話を使用することで、試合会場、インタビューの場所、応援者のいる国や地域に関わらず、どこからでも生で映像を送ることができる。このモバイルライブ中継を「モバチュウ」と名づけたのである。

世界とつながる

大会は予選、決勝と全25試合行われた。この試合日程を含む前後14日間のページアクセス数は4万1,857件である。国別の内訳は日本国内が55%、国外が45%と海外からの閲覧者の確率がかなり高かった。さらに、試合日程中(4日間)でのLIVE配信ページのアクセス数は1万4,515件にのぼり、時差にも関わらずリアルタイムで閲覧されている。

前述の応援メッセージは、12カ国から63通が届いた。1通の動画は概ね20秒と短いものが多い。試合の前後14日間のアクセス数は7,896件である。注目すべきはメッセージ1通当たり、平均で125回見られていることである。現在アンケートを実施中であるが、「家族や知人のメッセージを何回も見た」「該当ページに行くといろんな人が並んでいたので何人かのメッセージをついづい開いてみてしまう」との声が寄せられ



ている。ケータイで撮影された雰囲気が伝わること、案内画面が笑顔のアップであることで、その親近感がアクセス数へとつながったと考えられる。改めて、国や地域を超えて人と人のつながりを創り出す力を内在していることを確信した(上図)。



障害者スポーツの拡大に向けて

今回のW杯「開催の意義」に次のような記述がある。「ワールドカップの開催によって、国際的な活躍の舞台が整うだけではなく、自分たち自身が競技普及活動を通じて“社会に貢献できるチャンス”だと考えています」(日本電動車椅子サッカー協会プレスリリースより)。日本はこれから、まだこの競技が行われていないアジア・オセアニア諸国へ拡げていこうとしている。インターネットを使うことで、世界のどこにいても電動車椅子サッカーというスポーツを知ることができ、迫力や魅力を感じとることができる。選手の真摯なプレー、試合の興奮、周囲のサポーターの熱い声援、遠くから応援を送る人たちの笑顔を通して、スポーツが身近なものとして心に響く可能性を秘めている。